



264

この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2025年5月25日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部

ウイルス学者・佐藤佳さんが見つめるもの

25日(日)＝1、3面



新型コロナウイルスが猛威をふるっていたころ、東京大医科学研究所の佐藤佳（けい）教授＝写真＝は、専門家チームを結成し、変異ウイルスの特徴を解明するための実験を次々に行い、その結果をSNSで発信していきました。

研究成果の発表は科学誌などへの掲載が主流でしたが、掲載までに数カ月から数年の時間がかかってしまいます。刻々と変異を続ける新型コロナには到底太刀打ちできません。実験結果をスピーディーに掲載し、世に伝える。ウイルス

学は「基礎研究」と呼ばれるもので、成果はワクチン生成や医療システムに生かされることはあっても、社会と直接つながりを持つ機会は限られていました。

そもそも佐藤さんの専門はエイズウイルスで、コロナは専門外。「ウイルス学が社会に役立つときがきた」と、専門の殻を打ち破り、新たな専門家集団を結成しました。

新型コロナ発生から5年。コロナと闘った軌跡と、「必ず起こる次のパンデミック」への備えについて取材しました。

論点 どう守る 地域の安全

28日(水)＝オピニオン面

全国の交番と駐在所は近年減り続け、警察の見守り・駆け込み対応機能の減退が懸念されています。住宅や商店を中心とする「子ども110番の家」も15年で3割減少しました。

地域の安全をどう守

るべきか。独自の取り組みを続ける日本フランチャイズチェーン協会の服部岳士さん、AI（人工知能）による犯罪予測システムに詳しい筑波大の尾崎愛美准教授、市民防犯インストラクターの武田信

彦さんに聞きました。



石破茂首相は、地方の人口減少対策である「地方創生」を政権の重要課題に位置付けています。ただ、地方創生は歴代政権も取り組み、成果が芳しくな

かった分野です。「改革派知事」と言われた浅野史郎・前宮城県知事（77）の「写真」には、現政権の姿がどう映っているのか、尋ねました。



そこが聞きたい 地方創生の進め方

25日(日) Ⅱくらしナビ面

特集 ワイド

在米日本人が見た反DEI

26日(月)＝夕刊2面

多様性、平等性、包括性を示す「DEI」に、米国で逆風が吹き荒れています。

人種、性別、宗教といったさまざまな違いを尊重し、誰もが平等に扱われ、互いに認め合える

環境をつくる。この理念がトランプ大統領＝写真＝に毛嫌いされ、多様性の一翼を担う外国人が「身の危険」を感じるケースも出ています。現地で感じる社会の変化と息苦しさとは。



竹橋の窓辺から

編集後記



50代おひとりさまの私にとって、人生の最期をどんな風に迎えるかは決して他人ごとではなく、常に頭のどこかに居座り続けている問題です。6月29日に毎日新聞社とホスピス財団との共催のシンポジウム第3弾を開催します。タイトルは「ひとりホスピス・緩和ケア時代」。自分らしく生き残るために。会場でも、オンラインでも参加できます。ぜひご参加ください。（小野田香織）



毎日新聞
MAINICHI